

熊本県立小国高等学校 令和元年度（2019年度）学校評価表

1 学校教育目標
<p>教育基本法の理念、及び「平成31年度（2019年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」と、本校の三綱領「尚志・勉学・自主」の具現化を図る。基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和のとれた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。</p>

2 本年度の重点目標
<p>(1) 「徳育・体育・知育」の三育並進による知性と品性を備えた生徒の育成 (2) 志を高く（尚く）掲げ、自主的で意欲的に学び続ける生徒の育成 (3) 基本的生活習慣を確立し、情操豊かで社会性を備えた生徒の育成 (4) 適性を見極め、主体的な進路選択のできる生徒の育成 (5) 生まれ育った郷土に感謝し、郷土を誇れる生徒の育成</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	安心・安全な学校環境づくり	校内危険箇所の早期発見と事故災害の未然防止	安全点検項目を見直し、定期的に実施する。	点検箇所を整理し点検項目の明確化を図る。月に1回点検を実施する。	A	方策としてあげたものを実施し可能な限りスムーズな修繕に繋がった。次年度に向け未点検箇所を追加と点検項目等の修正を行っていく。
		災害時における生徒の安全確保	防災マニュアルの見直しと周知徹底を図る。	防災マニュアルの改訂と職員研修を実施する。	B	避難訓練の見直しを行い、実践に繋がる取組を取り入れた。避難所計画等職員への周知について検討が必要である。
	開かれた学校作り	積極的な情報の発信	毎月両町の広報誌に掲載される本校の記事を小国高校のホームページから両町の広報誌にアクセスできるようにする。	毎月両町に記事提供を行い広報誌がホームページに掲載されたら、高校のホームページにもリンクを貼る。	A	学校での様子をホームページで発信するとともに、両町へ記事提供している広報紙についても両町のホームページへのリンクを貼ることができた。
		保護者や地域の方との交流の活性化	学校行事への保護者及び地域の方の参加者を増やす。	育志会役員会やホームページ等を活用して、行事の紹介・案内に努める。	B	ホームページ等で情報を発信することができたが、小中学校との行事と重ならないようにする必要がある。
学力 向上	主体的・対話的で深い学びの実現	授業時間の確保と実施	授業の振替又は監督付きの自習を100%行う。自習の際は必ず課題等の準備を監督者に具体的に示す。	授業の時間割変更を必ず行うとともに、必要に応じて特別時間割を作成して授業措置を徹底する。	B	特別時間割の作成や教科間及び学年間で連携を取り合い、授業担当者が不在の対応を概ね行うことができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	主体的・対話的で深い学びの実現	職員の積極的な教材研究及び授業計画	授業アンケートにおいて、授業内容・進度・板書等の評価項目で適切であると答えた生徒の割合が全て90%以上にする。	年間2回の公開・研究授業週間において授業見学を行い、職員間で授業についての意見交換を活発に行う。	B	一部項目で目標値に到達できなかったが概ね達成できた。次年度はすべての項目で達成できるように年間計画等を見直したい。
	家庭学習時間の確保と習慣化	課題の管理と計画的な指導	授業アンケートにおいて、予習・復習をしている生徒の割合を50%以上にする。	年度中に教務部が中心となって課題の与え方についての研修を行い職員の意識を高める。	C	予習・復習をしている生徒の割合が24%と低かった。学年毎に宅習時間の提示状況を確認できるシートなどを作成したが次年度はこれらを活用しながら、学習の定着を図りたい。
		家庭学習の習慣化	宅習時間調査において、生徒の目標学習時間到達割合を50%以上にする。	各学年にエクセルシートを準備し、生徒の課題の種類及び時間を全職員が把握して、適切な指導を行う。	A	宅習時間調査期間における生徒の目標学習時間到達割合は55%と達成できた。今後は、上記の予習・復習と合わせて、生徒の学力向上を目指した。
キャリア教育(進路指導)	生徒の主体的キャリア形成意識の高揚	生徒の主体的な進路選択のための取組	進路行事を通じ進路選択に対する意欲を高める。手帳等を活用してPDCAサイクルによる生徒の課題解決力の向上を図る。	生徒のニーズに応じた進路関係行事を実施する。手帳等を活用して学びの記録を蓄積する。	B	各進路行事では94%の生徒が進路選択への意欲が高まったと回答。手帳については活用しきれなかったが、学びの記録をするための様式作りや各行事での記入については進めることができた。
		生徒・保護者への進路情報の提供と支援	全担任が進路検討会の情報等を面談等で活用できる。	進路検討会を1、2年生は2回、3年生は4回実施する。進路通信を月1回発行する。	C	進路検討会の回数については、目標を達成予定。面談での活用については、課題も残った。進路通信については、発行までの内容整備に至らなかった。
	進路目標の達成	進路目標達成のための学力の向上	模擬試験を基に進路目標のための課題の把握と改善に取り組む。	学力検討会を実施する。模擬試験分析会を実施する。	B	進路指導部等で模試ごとに結果分析を行い、進路目標の為の課題把握に取り組むことができた。学年や教科と情報の共有や課題の検討をいかに進めるかが今後の課題である。
		多様な入試制度の活用	国公立大学の推薦入試(A0・公募)に挑戦する生徒を昨年度から倍増させる。	推薦入試のしくみや意義を生徒・保護者へ説明し、周知するとともに入試制度改革に対応できる生徒を育てる。	A	A0入試に挑戦する生徒は昨年度より1名より2名に増加。本年度新たに1・2年生に対して、各学年保護者会の際に進路講話を実施することができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	初期指導の徹底	1学年に対して基本的な生活習慣について指導を徹底する。	宿泊研修の中で講話を実施する。1学年と連携して基本的な生活習慣の指導を徹底する。	A	初期指導の徹底、学年職員との連携によって基本的な生活習慣の指導を徹底することができ、効果も大きかった。
		予防指導の徹底	停学以上の処分が「0」件	生徒指導部職員を中心に朝会後の登校指導を行い、継続的に声かけを行う。生徒の現状に合わせ内容を厳選して集会で講話等を行う。	C	登校指導や集会、学年指導、クラス指導など状況に応じて指導を行ったが、年間で2件、延べ4名の停学指導案件が発生した。
	交通道德に関する意識の高揚	交通事故・交通違反を無くす	重傷に繋がる交通事故「0」、交通違反「0」	2学期に交通安全教室を開催するとともに交通委員が定期的に交通安全について呼びかける。 交通関連情報を職員に周知し、指導を統一する。	A	朝の放送を利用した交通委員による呼びかけや、原付、自転車通学生の規範指導の徹底により、目標を達成することができた。職員への交通関連情報については更に周知を図ることができるように改善したい。
		自転車マナーの向上	自転車ワンストップ100%	交通委員による朝の放送の呼びかけと、月2回以上の点検を行う。	B	前期は90%以上の月が多かったが、冬季に著しく自転車通学生が減ることから交通委員による点検を実施しなかった。
人権教育の推進	人権教育に対する理解の深化	地域の人権関係行事への参加	小国郷人権啓発フェスティバルへの1年生全員参加。	事前指導を徹底し、参加することの大切さを理解させる。	A	小国町人権啓発フェスティバル、きよら人権デーへ1年生全員が参加した。3名の生徒が、人権について自分自身の考えを発表することができた。
		人権教育に取り組む姿勢の捉え直し	教師が自身の姿勢を言葉で表現し発信できるようになる。	学習会に年2回、研修会に年2回以上参加する。	B	学習会への年2回の参加はできなかったが、研修会への年2回以上の参加は達成できた。
		生徒理解の深化ときめ細やかな指導の実践	生徒の長所や思いについて職員間で共通認識できるようになる。	生徒理解のための職員研修を年2回以上実施する。中学校との情報交換を行う。	A	生徒理解研修を3回実施することができた。定期的に中学校と情報交換を行うことができた。
	命を大切にすることを育む指導	自尊感情を育むことで、主体的な進路希望実現の一助とする	命の大切さを再認識させ自身の大切さと役割に気付かせる。	指導プログラムを作成し実践する。アンケートまたは感想文を書かせて自身を見つめ直させる。	A	人権朝読書、人権教育講演会、食育に関する講演会を通して命の尊さや多様性を大切にすることを育むことができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめの未然防止	自尊感情の向上	「自信のあることや自慢できることがある」と答える生徒を60%以上にする。	人権教育LHRの計画的な実施。人権朝読書の実施。人権作文、標語の作成。	A	心のアンケートで、「自信のあることや自慢できることがある」という問いに対して、「ある」及び「少しある」と回答した生徒が77%であった。
	いじめの早期発見といじめ事案への対応	アンケート調査の実施と事後対応	いじめ事案については解消率100%を達成する。	学期に1回ずつ、定期的にいじめアンケートと心のアンケートと事後対応を実施する。	B	いじめ事案の解消率100%は達成できなかったが、迅速な対応、未然防止のための対応は着実に進めることができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域協働活動の推進	総合的な探究の時間の活用	地元のことを学び、考え、伝えるために「小国郷を知る」講座を開講し、発表会を実施する。	両町役場等と連携して生徒の積極的参加を促す。	A	1学年において、両町役場と連携を取り地域の課題に対して実態を把握し解決策を提案することができた。また、発表会を実施し、好評を得た。
		地域団体との協働活動の実践	ボランティア活動に積極的に参加(全校生の90%以上)する。保育・高齢者支援・食育活動を実施する。	両町社会福祉協議会等と連携して、高齢者支援や障がい者支援、子育て支援、美化活動などに参加し福祉活動に対する生徒の理解を深める。	C	ボランティア活動への参加率は高い水準を保っているが、目標値の90%には届かなかった。積極的に福祉活動に関わる生徒の姿があり、地域に貢献することができた。
	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり	小国郷唯一の高等学校としての役割や学校に対する要望等を把握し地域からの信頼と相互理解に基づく関係を構築する。	協議内容を精選し、活動報告を随時行い意見をいただいで学校運営及び地域貢献に生かす。	B	委員の方から学校運営に関する貴重な意見を伺うことができた。教育活動に役立てることができた。学校行事に参加していただき、会議以外でも助言をいただくことができた。
中高一貫教育の推進	中高一貫教育の充実	三校合同の広報活動の充実	第2回中高一貫三校合同研修会における広報活動のアンケート項目について、肯定的な評価を80%以上にする。	「中高一貫だより」の作成に当たり、三校が連絡を密に取り合い、記事の発行及び町内へのPRを行う。小国町及び南小国町のケーブルテレビにも協力を依頼しPRを充実させる。	A	広報活動のアンケート項目については肯定的な評価が92%と目標を達成することができた。また「中高一貫だより」については、事前に入力フォームを係が提供し、より記事が作成しやすいように改善することができた。

4 学校関係者評価

- ・家庭学習が最重要の課題。子どもと保護者と学校が一体になって取り組まなければならない。これからも学校もしっかり取り組んで欲しい。
- ・毎朝、交通指導をしていると生徒が大きな声で挨拶してくれる。それを見て素晴らしいと思う。
- ・生徒達が小国高校を卒業してよかったと、誇りに思える生徒を作って欲しい。
- ・学校の魅力化に向けて、環境整備等を含めて、できる限りの応援をしたい。要望があれば言って欲しい。
- ・家庭での学習時間について話があったが、それ以外のことで子ども達は不安を抱えている。友達のことや将来に対して、不安を持った子達にこれからも向き合って欲しい。
- ・ボランティアへの参加について福祉関係だけでなく観光のボランティアについても希望があれば参加するとのことなので、観光に関するボランティアも、今後もあれば呼びかけていきたい。
- ・評議員として参加できてよかった。こういう場があることを知れて良かったし、子ども達に関しての取組を知ることができて感謝している。この地域から良い人材が育つようよろしく願いたい。

5 総合評価

自己評価総括表では評価がAとBの項目が多く、当初の目標を概ね達成できたと考える。反面、改善が必要な項目として、生徒の家庭学習が挙げられる。本年度、ホワイトボードで課題の量を教師が確認し、適切な課題を生徒に提供するよう工夫を行ったが、家庭学習の習慣化が不十分であるという結果であった。

生徒指導では、評価がCである項目もあるが、生徒の成長に資する取組をタイミング良く行い、効果的な指導を行うことができた。

ボランティア活動にも力を入れており、全生徒の90%がボランティア活動に参加するという目標は達成できなかったが、延べ289名の参加が有り、地域に貢献できた。

これまでの取組を活かしながら、今後、本校生徒が持っている能力を発揮できるよう更に教育活動に力を入れていく。学校評価アンケートの結果から、本校に対する生徒及び保護者の信頼や期待の大きさが感じられる。今後も、重点目標の達成に向けて教育活動を更に充実させ、生徒一人一人を大切にした教育活動に積極的に取り組む。

6 次年度への課題・改善方策

- ・予習・復習を中心とした生徒の家庭学習の習慣化に向けて、生徒の意識改革と課題の見える化を図り、改善を促す。
- ・進路情報の発信が不十分だった点を踏まえ、進路指導部と学年が連携して、生徒及び保護者に向けて定期的に進路に関する情報を「進路通信」という形で発信する。また、この取り組みを通して、早期から進路志望達成に向けた取組の意識を高め、具体的な行動に移すよう組織的な指導に繋げる。
- ・ボランティア活動については参加する生徒が偏った傾向があったため、来年度は生徒の進路志望や興味関心がある分野での参加ができるよう、積極的に案内等の情報を発信する。
- ・総合的な探究の時間「尚志」では、「小国郷を知る」をテーマとして、両町と連携して地域の課題を発見し、課題解決に向けて提案を行うことができ、地域に根ざした学習をすることができた。次年度は、この取組を更に充実させ、小国高校からの提案が地域に役立つ取組として商品開発や町の政策に反映されるよう発展させていきたい。